

「農家の嫁ってどうなの？ ってよく聞かれるんですけど、あまり意識したことがないんです。主人とは大学で同じゼミでしたけど、その時はまだつき合ってなかったから、彼が農家の息子だということも知らなくて。卒業後、彼の家に遊びに行った時にバジルの苗をもらって、その育て方の相談にのってもらっているうちに、つき合い始めて結婚するに至ったんですね。だから、たまたま結婚しようと思った人が農家だっただけって感じなんです」

とはいえ、シブヤユミコさんが嫁いだ農家は、彼女も全部の畑をまだ把握できていないというような大農家。嫁いできて、いま4年目です。「最初の1か月は、バカンスで遊びに来ているのと変わらない感じでしたね。何を見ても新鮮で、あ、カエルがいる！ バッタがはねた！ わ、キャベツができてるよ！ とか、そういう感じで1か月はなんかワーツと過ぎて。それから、ずっと筋肉痛との闘いでした。よく、お尻をつっちゃってたんですよ。ずっとしゃがんでる姿勢が多いので。つっちゃうと、そのままそこにバタンって横になって痛みが去るのをただ待つだけで(笑)。最初の半年間は、いつもどこかが筋肉痛でしたね。夜は、お風呂に入りながら寝ちゃってブクブク沈んで目が覚めたり。あとは布団になだれこんで寝るっていう生活でした。つらいっていうより、とりあえず突っ走って、無我夢中な感じでしたね。おじいさんも、おばあさんも、お父さんも、おだやかな方なので、温かく見守ってくださっていたので、その好意に甘えている感じでした(笑)。

いまだにそうなんですけど、お野菜の芽が出る瞬間は、何回見ても感動します。芽吹く瞬間っていうのは、そこで命が誕生しているというか。双葉って、腰から出てくるんですよ。人が



Heartful Story-12 「農家の嫁って。」

腰を曲げるように茎が土から上がってきて、最後に、ほわっと頭を上げるんです。腰で一生懸命、土を持ち上げてる感じが、なんともカワイイんですね。何度見てもいいですね。

私たちは『お野菜を『作っている』』とは言いたくないんですよ。『育てている』って言いなんです。自分たちの思い通りにコントロールして作っているというよりは、その子に育ってもらっているっていう感じですね。だから育ってもらえない場合もありますし、育ててあげられない場合もあります。途中、病気になってしまったり、害虫にやられたりする場合もあるんです。収穫の時は、ほんと無事によくここまで育ってくれたっていう感じがしますね。とくにウチの『じぶや農園』では農薬は使わず、全部のお野菜ではないんですが肥料すら使わない農法に取り組んでいるので、自力で頑張ってもらうしかなくて。そのお野菜自身が最大限自分の能力を発揮できるような環境を作ってあげることしかできませんから」

トマトが長雨で割れてしまいい出荷できなかった話、雪の中の収穫のつらさ……。そんな農業の厳しさも聞かせていただいたけれど、シブヤさんの話は、どこか楽しげで明るいものでした。「ウチの畑って、いつもシーンとしていることってないんですよ。いろんな生き物がいるので、どっかでカサカサ、モゾモゾいつてたり、ピョンピョン跳んだり。畑の通路にも雑草が生えていて、いろんなものが混在している感じ。そのほうが、なんか自然というか。いろんな生き物がいる中に、私たちが一緒にいるみたいな感じですかね。だからカエルさんも、バッタさん、カマキリさんも、うれしい！ 私も、うれしい！ ユー、ハッピー！ ミー、ハッピー！ いねッ！ みたいな(笑)。ウチの畑って、なんとなくそういう感じですよ」